



吉田公均「金碧西園雅集図(部分)」  
天保11年(1840)  
富山市郷土博物館蔵

主催：富山市教育委員会（富山市佐藤記念美術館）

観覧料：個人大人 210 円、高校生以下無料



木村立嶽「福祿寿図(部分)」  
明治時代  
富山市郷土博物館蔵

富山市佐藤記念美術館企画展

# 富山ゆかりの 三絵師 — 岸駒・公均・立嶽

THREE PAINTERS  
CONNECTED TO  
TOYAMA  
— Gan Ku, Kokin, Ryugaku

令和8年4月18日(土)～7月5日(日)

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）※5/25～5/31 休館

岸駒「雲猫図(部分)」  
江戸時代  
富山市郷土博物館蔵



富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)

TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080

# 富山ゆかりの三絵師

## 一岸駒・公均・立嶽

THREE PAINTERS  
CONNECTED TO  
TOYAMA  
— Gan Ku, Kokin, Ryugaku

近世以降、富山からは多くの絵師たちが世に出て、個性豊かな作品を後世に残しています。なかでも、江戸後期から明治初期にかけて中央画壇で健筆をふるった、岸駒、吉田公均、木村立嶽の三人は、現在でも広くその名が知られています。

江戸後期の京都画壇で才覚をあらわし、岸派の祖となった岸駒（一七四九？—一八三八）は、母親の実家が富山県の岩瀬にあったと伝えられています。青年期までを加賀国金沢で過ごし、安永八年（一七七八）頃に京都に上ると、やがて諸派を折衷した表出性の高い画風を確立し、円山応挙らと並んで京の人気絵師となりました。

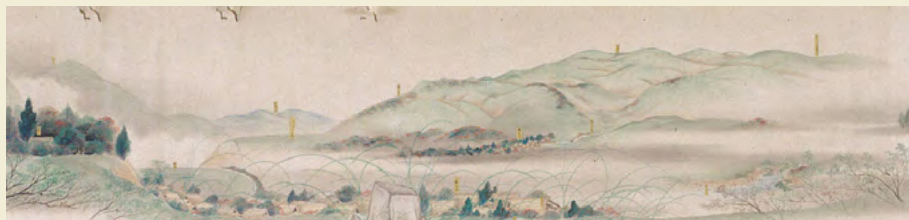
吉田公均（一八〇四—一八七〇）は、文化元年（一八〇四）に富山県の上市町で生まれています。岸駒の作画活動が最盛期を迎える文化年間の末頃に上洛し、四条派の紀広成や松村景文に師事して絵を学びました。やがて二十代後半には一流絵師としての地位を確立し、安政二年（一八五五）の京都御所再建の際には御学問所に障壁画を描くなど、主に幕末の京都を舞台に活躍しました。

三人の中でもっとも遅く生まれた木村立嶽（一八一八—一八九〇）は、文政十一年（一八二八）に富山市南中央町で生を受けました。十二歳で当時の富山藩主・前田利保の推薦を得て、木挽町狩野家の幕府奥絵師・晴川院養信に師事します。青年に達すると富山藩御用絵師として藩の画事に従事するようになり、一方で狩野派の一員として江戸でも実績を残しました。明治維新後は、フェノロサが組織した鑑画会に加わり、西洋の絵画表現を取り入れた新しい日本画の創造にも取り組んでいます。

本展では、当館や富山市郷土博物館の所蔵品の中から屏風や掛軸など約二十点を選び、これら三人の画業の一端を紹介します。江戸や京都で名をあげた、富山ゆかりの絵師たちの足跡に触れていただく機会となれば幸いです。



①



②



③



④



⑤



⑥



- ①岸駒「山水図」安永9年(1780)
  - ②伝・木村立嶽「富山藩領山方絵巻(部分)」文久3年(1863)～明治元年(1868) 富山市郷土博物館蔵
  - ③岸駒「琴棋書画図屏風(左隻)」江戸時代 富山市郷土博物館蔵
  - ④吉田公均「唐子図」江戸時代 富山市郷土博物館蔵
  - ⑤木村立嶽「立山船橋真景図」江戸～明治時代 富山市郷土博物館蔵
  - ⑥木村立嶽「韓信張良物語之図」江戸～明治時代 富山市郷土博物館蔵
  - ⑦木村立嶽「越富奇談島山物語(部分)」明治19年(1886) 富山市郷土博物館蔵
  - ⑧岸駒原画「松下欽虎図(絵画資料)」文化6年(1809)
- ※都合により展示作品の一部が変更となる場合があります。



⑦



⑧



交通案内 / 富山駅から徒歩15分 / 市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分 / 地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩2分 / 富山空港より連絡バスで20分 / 北陸自動車道富山ICより車で15分 / 当館に駐車場はありません。最寄りの駐車場(有料)は城址公園地下駐車場となります。

会期：令和8年4月18日(土)～令和8年7月5日(日)

※5/25～5/31 休館

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)

観覧料：個人大人210円、団体大人170円、高校生以下無料



**富山市佐藤記念美術館**  
〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)  
TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080



AMAZING TOYAMA